

速報展

発掘された鈴鹿 2019

2020年3月7日(土)～6月28日(日)



伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）第38次 縄文時代中期の竪穴住居

■伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）第37次 広瀬町

2018年12月13日～2019年3月1日 学術調査 69.3㎡

今回の調査は、第34・35次調査において確認された方格街区南東の新たな区画「荒子東」区について、実施しました。同区画の北西隅にあたる畑に調査区を設定して、西辺の区画施設の有無及び北に接する「南野南」区との間に東西街路が存在するか否かを確認することにしました。その結果、「荒子東」区の西面区画において、南北に並行して走る二条の溝を検出したことから、築地の側溝であることを確認しました。しかし「荒子東」区の北辺にあたる築地は検出できなかったため、両区については個別の区画ではなく、方格の地割を接続して長方形の区画をなしている可能性も出てきました。

遺物は瓦のみで、平瓦・丸瓦が出土しましたが、押印文字瓦が2点出土しました。1点は新形式で、正円形で陽刻され圏線の内側に圏線に接して「井」状に線が引かれたものです。もう1点は、円形に「水」とみられます。



新形式の押印文字瓦



円形に「水」



瓦 出土状況

■伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）第39次 広瀬町

2019年12月1日～2020年2月29日 学術調査 144.2㎡

第39次調査は、方格街区の東に位置する「南野北」区の東辺区画溝を確認することを目的にして実施しました。現在発掘調査は継続中ですが、現段階では区画溝は見つかっておらず、方格地割の東北部については区画施設の整備が完成してなかった可能性があります。また、第37次調査のように瓦などの出土が期待されていましたが、遺物は全く出土しませんでした。

■国分東遺跡 第4次 国分町

2019年1月10日～2019年1月30日

道路側溝新設に伴う緊急調査 30.2㎡

道路側溝敷設工事に先立って緊急調査を実施しました。調査区を2か所（北・南区）設定し調査を行ったところ、それぞれから溝や土坑を検出しました。北区では現代の整地層から混入品と考えられる山茶碗の破片が出土しました。南区で検出された溝からは伊勢国分寺で使用されたと考えられる奈良時代の瓦の他に山茶碗が出土し、他の溝からは緑釉陶器が出土しました。いずれも混入品の可能性が高いため遺構の時期特定には至りませんでした。



緑釉陶器

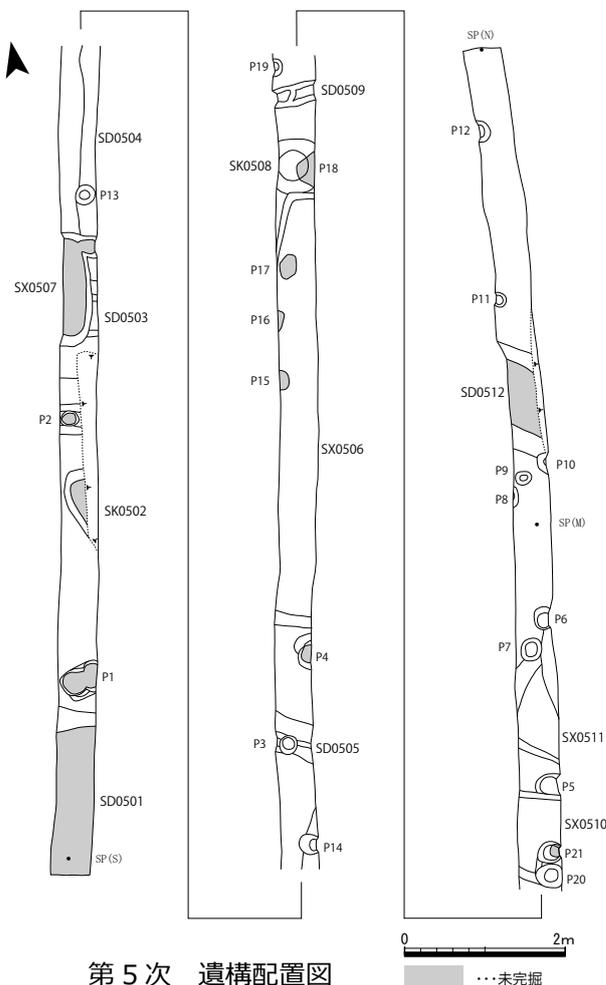
■国分東遺跡 第5次 国分町

2019年12月9日～2019年12月11日

道路側溝新設に伴う緊急調査 15.5㎡

第4次調査と同様、道路側溝敷設工事に伴う調査です。調査区が幅0.5m、長さ31mと狭小のため、詳細が不明な遺構がほとんどの中、溝・土坑・柱穴を検出しました。溝からは土師器の羽釜や常滑焼、山茶碗、灰釉陶器が、土坑からは土師器皿や山茶碗、古瀬戸、そして柱穴からは常滑焼の甕が出土しました。このことからほとんどの遺構は室町～江戸時代と考えられます。

このように第4・5次調査も含め過去の調査結果から、国分東遺跡の位置する台地上には広い範囲で遺構・遺物が遺存していることを確認できたのは一つの成果です。

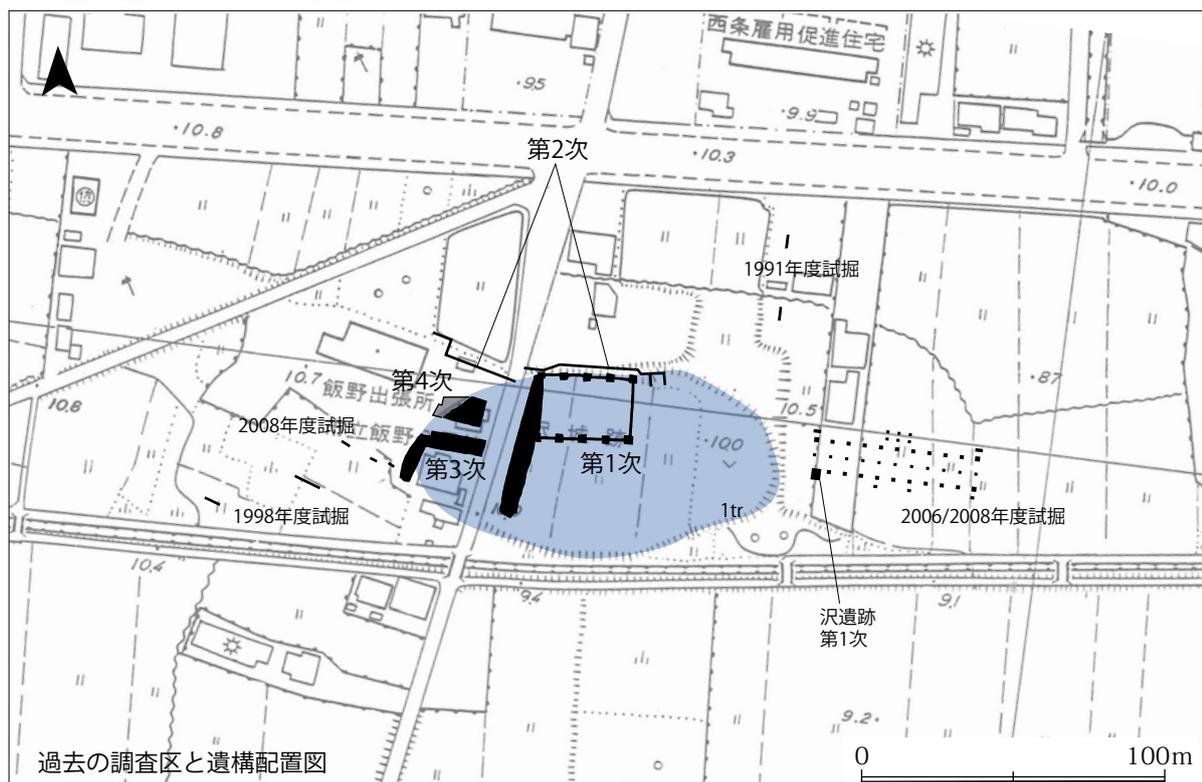


第5次 遺構配置図

■沢城跡 第4次 飯野寺家町

2019年3月1日～2019年4月30日 個人住宅建築工事に伴う緊急調査 94.1㎡

過去に実施された第1～3次調査で、沢城の築城の際に外周に黄褐色砂礫層を土手状に積み上げ、その内部に黒色粘土と黄褐色砂礫を盛土して平場を作っていたことが確認されています。今回の調査区は城の中核部からはずれた遺跡の北西縁辺部にあたるため、ほとんどが盛土のみでした。それでも、南東隅でわずかに礎石建物が確認できました。隣接する場所で実施された第3次調査で見ついている礎石建物の延長であると考えられます。礎石の周りの床は、きめの細かい粘土で化粧がなされています。その粘土の貼床が2枚存在することから、城内は建て替えが行われていたことが考えられます。出土遺物には恵まれず、室町時代終わり頃の土師器皿、鉄釘、かすがいの他に縄文土器、弥生土器、近現代の瓦などが少量出土したのみにとどまりました。



■須賀遺跡 第10次 須賀一丁目

2019年4月17日～2019年7月26日 宅地造成工事に伴う緊急調査 210㎡

調査区北部から中央部におよそ10mにわたって堆積した黒色遺物包含層から、土師器や須恵器の壺、甕、坏、皿、碗、高坏などの破片が大量に出土しました。しかし、溝・柱穴・土坑・井戸などの遺構から出土した遺物は量的には少なく、各遺構の時期決定に困難を極めています。他にも、弥生土器、製塩土器、瓦、陶器、土錘、砥石、軽石など豊富な遺物がコンテナパッドに29箱分出土しました。注目すべき遺物に土馬や斎串など祭祀に関わる遺物があります。

遺構としては第6・7次調査で検出された古墳時代及び平安時代の溝2条の西側続きが確認されました。さらに調査区の南側では掘立柱建物を検出しました。東西(3間)6.3m以上、南北4.8m(2間以上?)の東西棟です。柱掘方の平面形は一辺0.8mの方形を呈しており、深さ0.5～0.6m、柱穴の柱間は2.1mでほぼ正方位です。北側及び南側柱穴列が柵列や門などの別々の遺構であることも想定されますが、柱掘方の規模や平面形が同様であるため現段階では掘立柱建物と認識しておきます。



土馬 頭部

■須賀遺跡 第11次

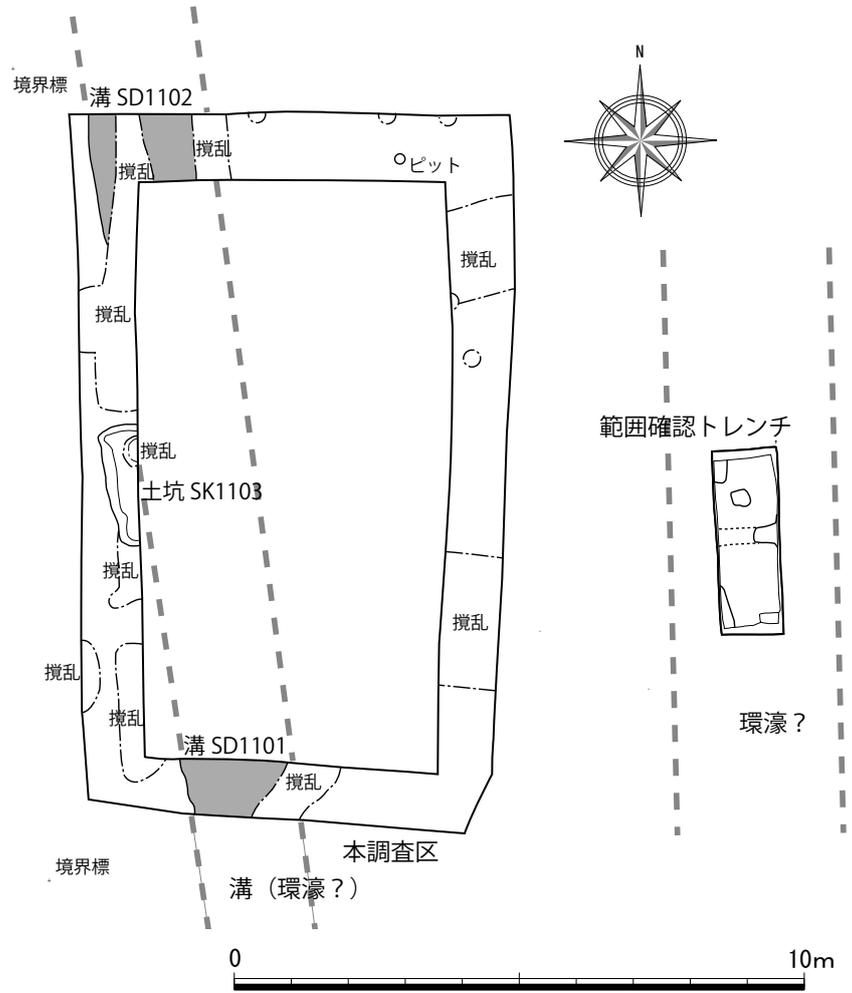
須賀二丁目

2019年4月15日～2019年4月16日

個人住宅建築工事に伴う緊急調査

37.2㎡

調査区付近の標高は11.5m前後あり、須賀遺跡の範囲内では最も小高い地点にあたります。調査の結果、幅2m弱の南北方向に走る弥生時代中期の環濠とみられる溝1条と中世の土坑1基を検出しました。今回の調査は建物基礎の掘削レベルまでとし、下部の遺構・遺物は現状での地下保存としました。事前の範囲確認調査では、調査区から8mほど東にも環濠と見られる落込みが確認されており、これは過去の第5・7・8・9次調査で見ついている環濠の続きと考えられることから、東側の段丘先端部に営まれた集落を囲むように、環濠が何度か掘られたことが確認できました。



第11次 遺構配置図

■須賀遺跡 第12次 須賀二丁目

2019年12月23日～2020年1月25日 個人住宅建築工事に伴う緊急調査 100㎡

既存住宅の解体工事後の調査であったため、調査区には基礎を撤去した際に生じた攪乱がおびただしく見られましたが、攪乱の間を縫うように柱穴や土坑、溝などが密に確認できました。多数検出した柱穴は建物としてはなかなかまとまらず、現在検討中です。調査区東部では古墳（方墳）の北西周溝の一部と考えられる溝が検出されています。溝は調査区外に延びるため規模は不明ですが、東西、南北とも5m以上の規模を測ります。出土した遺物には弥生土器、土師器、須恵器、埴輪などがありますが、ほとんどは新しい時期の瓦や近世陶器が占めます。調査区は須賀の集落の中心地にあたり、近世以降の人々の営みが現在まで継続していることが確認できました。



方墳の周溝



調査区全景

■高井A遺跡 第3次 御園町

2019年10月2日～継続中 公共施設建設工事に伴う緊急調査 2,400㎡

公共施設建設に伴う広範囲の発掘調査のため、Ⅰ期とⅡ期に分けて調査を実施しています。現在Ⅰ期の発掘継続中であるため全体の詳細は不明ですが、弥生時代から鎌倉時代にかけての遺構・遺物が多数見つかっています。検出された遺構には、溝・土坑・掘立柱建物・柱穴などがあり、掘立柱建物は飛鳥時代～平安時代初期と、平安時代末～鎌倉時代にかけてのものに大別できます。根元が腐らず残っている柱もいくつかあります。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、山茶碗、灰釉陶器、土錘などが豊富に出土しています。土器には墨書されたものもあり、瓦も出土しているため調査区付近に寺院が存在したことが考えられます。



発掘調査風景



土器・土錘 出土状況

■寺山遺跡 第9次 高岡町

2019年10月1日～2019年10月31日 倉庫建設工事に伴う緊急調査 110㎡

倉庫建築工事が計画された範囲の内、建物の基礎を据えるため遺構が破壊される部分を対象として実施しました。調査地内に幅1.2m、長さ23mの東西調査区を4箇所設定し、調査を行いました。検出された遺構には、溝・土坑・竪穴住居・柱穴があります。中でも最も南の調査区の東端で古墳の周溝が検出され、円筒埴輪が出土しました。東に隣接する寺田山4号墳の周溝の一部である可能性があります。



円筒埴輪片 出土状況



調査区全景 フェンスの向こうに寺田山4号墳

■磐城山遺跡 第12次 木田町

2019年5月7日～2019年11月29日 農地改良工事に伴う緊急調査 225㎡

弥生時代後期から古墳時代後期の竪穴住居 10棟以上を検出しました。この内の1棟は、平面形が五角形を呈した竪穴住居です。弥生時代後期に特有の形状ですが、市内でも岸岡山Ⅲ遺跡、平田遺跡に続く3例目になります。他にも、調査区の西側にむかうにつれ、室町時代の木田城跡に関わる遺構が検出され、地割溝なども見つっています。

これまでの12次にわたる調査で、本遺跡は県内でも有数の遺構密度が高い遺跡として認識されるようになってきました。今回も調査面積の割には、竪穴住居などの遺構がおびただしく重複して検出されているため、遺構の掘削や確認に多大な時間を要し、発掘調査は困難を極めました。



磐城山 12次調査 平面図



遺物出土状況

■磐城山遺跡 第13次 木田町

2019年7月10日～継続中 農地改良工事に伴う緊急調査 307㎡

第12次調査に引き続き、隣接する西側を現在も継続して調査中です。現段階で検出できたのは弥生時代や古墳時代の竪穴住居、室町時代と推定される溝や井戸、焼土坑などがあります。これまでの調査同様、遺構は高密度で、竪穴住居は何度も建て替えているためにおびただしい重複が見られました。



礫出土焼土坑



井戸

■宮ノ前遺跡 第5次 十宮三丁目

2019年5月27日～2019年5月31日

個人住宅建築工事に伴う緊急調査 35.5㎡

個人住宅建築のための擁壁設置工事に伴う調査のため、調査面積が35㎡と小規模なものです。調査の結果、土坑・掘立柱建物の柱穴の可能性のある土坑・溝・柱穴などを検出しました。ほとんどの遺構から須恵器とともに古墳時代前期の土師器が出土しましたが、下層に含まれる遺物が流入したと考えられ、主な遺構は古墳時代後期から飛鳥時代にかけてのものです。



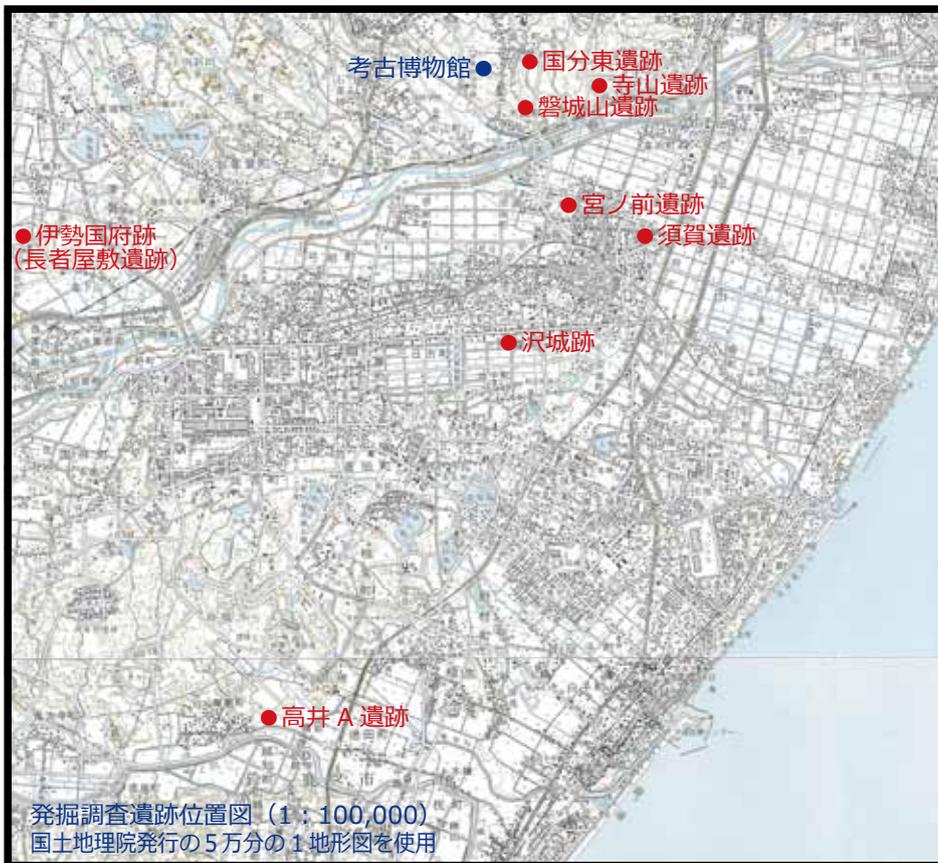
調査区全景

■磐城山遺跡 発掘体験

2019年7月28日



貴重な埋蔵文化財について理解を深め、親しみが持てるように2019年も小・中学生を対象として発掘体験を開催しました。午前・午後の部、合わせて総勢120名の参加がありました。



関連行事 ※申込不要・聴講無料

■発掘担当者による展示解説

日時 4月11日(土) 13:30～

場所 考古博物館 特別展示室

■スライド説明会

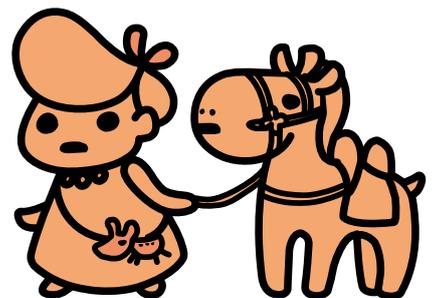
第1回 5月17日(日) 14:00～

須賀遺跡・沢城跡・磐城山遺跡

第2回 6月28日(日) 14:00～

高井A遺跡・伊勢国府跡

場所 考古博物館 講堂



鈴鹿市考古博物館

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 鈴鹿市国分町224番地

TEL 059-374-1994 FAX 059-374-0986

URL <http://www.city.suzuka.lg.jp/kouko/>

E-mail kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp